

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400211		
法人名	有限会社 ワンダー		
事業所名	グループホーム おむすび苑		
所在地	〒802-0032 福岡県北九州市小倉北区赤坂1丁目7番18号 Tel 093-533-0633		
自己評価作成日	平成31年01月29日	評価結果確定日	平成31年03月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成31年02月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様本意でケアプランを作成、生活を支える杖に私たちがなり、その日その時の最善を尽くします。また、医療行為がない限り、ご家族様の意向に添いながら、看取りをさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「おむすび苑」は、地域密着型事業所として小規模多機能ホーム併設で7年前に開設した定員18名のグループホームとして、利用者が住み慣れた地域の中で、穏やかに暮らし続けることのできる事業所である。ホームドクターによる月2回の往診と、看護師や介護職員との連携で、24時間安心の医療体制が整い、重度化に対応出来るハード面の充実を図り、看取りの支援にも取り組んでいる。法人内認可保育園の子ども達がホームを度々訪れ、おむすび公園の畑での秋の芋掘り・焼き芋等の交流は利用者の大きな楽しみである。重度化の利用者に対する食事介助を1対1で時間をかけて行うために人員配置を厚くする等、施設長を中心に、利用者を第一に考えた介護サービスの提供に取り組み、利用者の明るい笑顔を見守る家族は、喜びに包まれ、家族と深い信頼関係を築いているグループホーム「おむすび苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、各フロアに掲示し、いつでも観覧できるようにしています。みんなで共有し、実践につなげています。	法人理念や基本方針、「おむすび苑8ヶ条」を見やすい場所に掲示して、毎週月曜日の朝礼時に唱和し、職員一人ひとりが理解して共有に努めている。職員は利用者に寄り添い、笑顔で話しかけ、利用者本位の介護の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、組長さんと交流しています。総会や地域の行事に積極的に交流しています。	利用者と職員は地域の一員として、町内の清掃活動や行事に出来るだけ参加している。おむすび公園の畑で育てた芋を、同一法人保育園の子どもたちと収穫し、焼き芋とバーベキューを楽しむ等、少しずつ交流の輪が広がっている。また、1階のおむすびルームを地域に開放し、利用できるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での支援の報告をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2カ月に1回の、運営推進会議を開催しています。そこで、皆さんからの貴重なご意見をいただいています。	2ヶ月毎に開催する運営推進会議では、併設小規模多機能ホームと合同で行い、利用者の状況や行事、事故等の報告や質疑応答を行い、参加委員から質問や要望、情報提供を受け、出された意見や要望は検討し、サービスの向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	なにかあれば、すぐに介護保険課や地域包括に連絡し、相談しアドバイスを受けています。	管理者は、ホームの空き状況や介護の疑問点を行政に相談し、困難事例や事故等の報告を行っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロです。玄関の施錠はしていません。	今年度から身体拘束の職員研修が義務化され、身体拘束廃止委員会を中心に、虐待や身体拘束について勉強会を行ない職員への周知を図り、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、利用者第一に考えた時に、接遇等で気になる点は、その都度、職員間でしっかりと話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。施設内に、6か所のモニターを設置し、いつでも録画が見れる体制です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	3名の後見人制度を利用されている方がいます。パンフレット等で学んでいます。	成年後見制度を活用している利用者があるので、後見人とのやり取りを通じて、施設長や管理者は制度の理解に取り組み、パンフレットや資料を用意している。利用者や家族から相談があれば、内容の説明や申請機関に紹介できる体制を整え、利用者の権利が被害を被らないように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、しっかりと時間をかけ説明させていただいています。不明な点も、その時だけではなく、常に聞いていただける体制です。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、ご意見箱を設置しています。第三者に表せる場所を、重要事項説明書に記載し、契約時に伝えています。	職員は、日常生活の中から利用者の意見や要望を把握し、運営推進会議や面会時、又は電話等で家族と話す機会に、利用者の近況や健康状態を報告し、家族の意見や要望、心配な事を聴き取っている。家族会を開催し、家族同士で話し合える関係を築き、家族とホームの信頼関係が構築されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談をし、交換ノートを作成しました。常に、代表者には相談をし、アドバイスを受けています。	全体会議を不定期に開催しているが、日頃はユニット毎に、毎日の申し送りの時間を活用して意見交換を行い、職員の意見や要望、心配な事を話し合っている。出された意見や提案は各リーダーから施設長に伝えられ、現場の声として代表者まで挙げてホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を提出し、確認し評価をされています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集で面談された方は、雇用につなげています。性格等を配慮し、グループホームまたは、小規模多機能の配置を考慮しています。	施設長は、常にお互いを思い合うことの大切さを職員に説明し、理解してもらい職員間で助け合いながら、それぞれの特技や能力を活かして職員が、生き生きと働けるよう配慮している。また、職員の募集は、年齢や性別、資格や経験の制限はなく、働く意欲や人柄を優先して採用している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議では、常に尊厳というところを伝えています。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて職員間で話し合い、法人理念、基本理念、おむすび苑の理念を意識し、毎週月曜日の朝礼でおむすび苑8ヶ条を唱和して、職員が常に意識して、人権教育、啓発活動に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価表を把握し、研修参加内容の把握をしています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の研修に参加し、交流の機会を設けています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを充実し、ケアマネが家族様からの意向を考慮し、スタッフに正確に伝えて、安心な関係づくりをしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを充実し、ケアマネが家族様からの意向を考慮し、スタッフに正確に伝えて、安心な関係づくりをしています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、必要事項をケアマネが把握し、スタッフに正確に伝え対応しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を支える杖となれるよう努力しています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、施設に来苑していただいたり、外出や外泊を提案し、家族の絆を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外のお友達やご近所さん、以前利用されていた施設の方、お寺の方が来苑されています。	職員が笑顔で挨拶を徹底し、面会に訪れやすい雰囲気作りを心掛け、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎している。家族と一緒に買い物や美容院、カラオケに出かける等、普段はいけな場所に出かけてもらい、利用者の馴染みの関係が、ホーム入居で途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、なじみの関係が築けています。居室の行き来もあります。名前の呼び合いをされたり、入院されていたら、姿が見えないことに心配されることもあります。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方は、入院先にお見舞いに行きます。お亡くなりになられた方は、初盆参りをさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネが、家族様からの意向や可能な方は、本人様から意向を聞いています。	職員は日常生活での会話から、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。また意向表出が、難しい場合は、職員が利用者寄り添い、表情や行動から思いを汲み取り、常に利用者主体である事を意識しながら、ホームの中で利用者が安心して暮らせるように支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人の生活史を振り返りながら、サービス利用の経過を把握しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランや日課表をスタッフ間で共有しながら、把握をしています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の開催やフロア会議の実施を行い、介護計画を作成しています。	担当職員は利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、心配な事を聴き取り、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記載し、情報を共有しています。ケアマネが把握し、介護計画の見直しをしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の状況変化に応じ、支援内容を変更しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に、状況を見ながら参加できる方は、積極的に参加され、楽しんでいただいています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を図りながら、他科受診も対応させていただいています。	契約時に、利用者や家族の希望を尊重して主治医を決定し、現在は利用者全員が、ホームの協力医療機関が主治医であり、定期的な往診と緊急時の指示を受けている。主治医と看護師、介護職員が協力して、利用者の24時間が安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日々の気づきを記録に残し、看護師が把握し、状態を観察し、必要に応じて対応をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、お見舞いやソーシャルに情報を聞き、早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設ですることをお伝えし、重度化や看取りに対し方針を決め共有し、施設全体で取り組んでいます。	契約時に重要事項説明書を基に、利用者や家族に重度化や終末期に向けた方針について説明し、理解を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と主治医、関係者で話し合い、今後の方針を確認し、希望があって条件が整えば看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、周知徹底しています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、訓練を行っています。	消防署の協力と指導を得て年2回、併設事業所と合同で、昼夜を想定した避難訓練を行い、2階と3階の利用者18名を、安全に一時避難場所に誘導し、消防車の救出を待つ体制を整えている。また、「火を出さない」事を申し合わせ、安全点検を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、会議等で常に指導しています。	利用者のプライバシーが守られるように、常に尊敬の念を持って利用者に接し、プライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応に心掛け、入社時に研修でしっかりと意識づけを行っている。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、施設長が常に職員に説明し、周知徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望は、お聞きし、自己決定ができるよう支援しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が業務優先にならないように、業務内容も利用者様本意に考えています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪やお化粧や洋服選びの支援をし、家族様の協力を得ながら髪染めも施設内で行っています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、系列施設から手作りの食事が、朝・昼・おやつ・夕が毎日届いています。施設ないでも、レクレーションの中で食事を作ったりおやつを作ったりしています。	法人厨房から栄養バランスの良い食事を配食し、彩り良く盛り付け、炊飯や汁物の温めは各フロアで行なっている。食事の準備から片付けまで、利用者の能力に合わせて楽しみながら手伝ってもらっている。また、おやつ作りや調理レク、天ぷらレク等、利用者の「食」を豊かにする支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の嚥下状態に配慮し、常食から一口大、刻み、ミキサー食の提供をし、食事介助も行っています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っています。また、訪問歯科より指導を受けています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツの支援に配慮しています。パットやリハパンやオムツも状況に応じて変更し、自立に向けた支援を行っています。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、表情や仕草を観察しながら、タイミング良く声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導を行い、紙パンツから布パンツに変更できるように、職員と利用者が頑張り、利用者の自信回復に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や水分量の工夫をし、その旨を主治医に報告し、排便コントロールを行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の健康状態に配慮し、気分の変動に合わせて入浴介助を行っています。	入浴は利用者の希望や体調を見ながら週2回を基本としているが、便失禁があった場合などはその都度シャワー浴を行い、自立の方は希望があれば週3回支援している。クラシック音楽を聴きながら入りたいとの要望を受けて、音楽をかけている。また、入浴を拒否される利用者には、時間を変更して誘導のタイミングを工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床の時間は決めずに、一人一人の時間合わせ臥床介助を行っています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当薬局との連携を取り、情報の共有と指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの充実や外出等を行っています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の状況で外出を考慮しています。家族の方との外出も協力があります。	天候や利用者の体調を見ながら、花見や買い物、ドライブ等に出かけ、気分転換に取り組んでいる。おむすびの形をした敷地の中のおむすび公園を整備し、花や芋を植え、ベンチを置いて、利用者がのんびり外気浴を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭面での支援は、できていません。お預り金から、好まれるものをお聞きし、スタッフが購入しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族さんや親せきの方との電話のやり取りはあります。携帯電話を持参されてる方もいます。手紙のやり取りもあります。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾りつけをスタッフが、利用者様と考え行っています。毎月の月カレンダー作成は定番になっています。	1階に、地域交流室おむすびルームを設置し、おむすび公園を整備して、地域の方や保育園児、利用者の交流の場になっている。三角形の敷地を上手に活かした建物は、清潔で清掃が行き届き、温度や湿度、照明や音、臭い等にも配慮され、明るく、アットホームな雰囲気の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	主に、フロアでの交流が多いですが、お互いの居室への行き来もあります。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、自身が使用されていたものを持参して頂けるよう説明させていただいています。	ベッドにエアコン、カーテンはホームで用意し、入居前に利用者や家族と話し合い、それぞれが馴染みの物を持ち込み、仏壇や家族の写真等、大切な物を身近に置くことで、利用者が安心して過ごせるように家族と相談しながら居室を整えている。また、換気、清掃を小まめに行い、気持ちよく過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全員で、グループホームの意味を理解し、会議や研修を重ね、安全に自立した生活が送れるよう工夫し、日々支援を行っています。		